

2017年3月26日 礼拝メッセージ

聖書：第二サムエル記 23 章 18～39 節

説教：神がご覧になっているもの

はじめに

前回、ダビデがまだイスラエルの王となつたばかりで、敵であるペリシテ人を迎え撃つためにアドラムのほら穴に隠れていたときのことを見ました。彼はこんなことをつぶやきます。「だれか、ベツレヘムの門にある井戸の水を飲ませてくれたらなあ。」ダビデが生まれ育つた町ベツレヘムが今は敵に囲まれて危機に瀕しています。そのベツレヘムの水が飲みたいと言うのは、喉が渇いたからというわけではありません。一刻も早くベツレヘムを敵の手から解放してやりたい。そんなダビデの願いがこのようにことばとなったのです。

でも敵は優れた武器を手にかけています。簡単に攻め落とすことができないことはダビデ自身がよくわかっています。まさかだれも行くはずはないと思っていました。ところが、三人の勇士たち、はいのちをかけて敵の陣営を突破して水を汲んでダビデのところに持ち帰ります。これを見て一番驚いたのはダビデです。彼らがいのちをかけて運んで来たこの水は、血そのものである。自分は絶対にこれを飲むことができない。主だけがこの水を飲むことができると語って、主にささげました。

やがてこのことから主イエス・キリストが浮かび上がりました。この方がご自分の血をささげていのちの水を私たちのために汲んでくださった。そのこととつながっていた。それが前回のあらすじです。

1 なぜ名前を載せるのか

今日の箇所ではたくさんのお名前が載せられています。ここにどんな恵みがあるのかととまどいます。こういうことでしょうか。兵士たちは王の命令により戦いに出向かなければなりません。いのちを落とす者もいます。それがもし、戦死しても国が何も報いることがないとしたらどうなるか。いのちをかけて国のために尽くそうと思う者はいなくなります。ですから戦場でいのちを落とした者たちの名誉は大切に守らなければなりません。多くの国ではそのために、国が戦没者を埋葬して追悼する施設をつくるくらい気を配ります。

それと同じようにダビデも、国のために一生懸命尽くした人たちの栄誉をたたえるためにここに名前を記したのか。もしそうであるなら、この箇所は私たちにほとんど関係がないことになります。

毎回言いますが、聖書は罪人の救いのために書かれたものです。どこを開いても救いのことが書かれているはず。ここにもあるはず。でもいったいこのどこに救いの恵みがあるのか。

手がかりとして、24 節にあるヨアブの兄弟アサエルと 39 節のヘテ人ウリヤを取り上げます。というのはこのふたりにはある一つの共通点があるからです。それはなにか。詳しく見ていきます。

2 ヨアブの兄弟アサエル (2 章 18 節以降)

1) アサエルの業績

サウル家の将軍アブネル ダビデ家の将軍ヨアブ

まずアサエルから。おそらくアサエルと言ってもこの人が何者であるのか覚えている人はほとんどいないでしょう。アサエルのことは2章18節以降に詳しく出てきます。その頃というのは、ちょうどイスラエルの王であるサウルが倒れて大混乱状態にあったときです。だれが次の王となるのか。跡目争いが始まります。亡命先から帰国したばかりのダビデは、人々の支持を受けて、二代目のイスラエルの王となります。いっぽう、サウル家も黙っていません。自分たちの一族から次の王様を出すべきであると考え、将軍アブネルを中心にして立て直しを図ろうとします。一方ダビデ家はヨアブが将軍として立っています。当然そこで衝突が起きます。あるとき、ヨアブとアブネルの間で激しい戦いとなったときがありました。そのうちにアブネルの形勢が不利になり、逃げることにします。ヨアブは後を追っていきます。ヨアブといっしょに追っていたのが、ヨアブの兄弟で18節に出て来るアビシャイ、そして24節のアサエル。そのなかでもアサエルが足が速かったので、アブネルに追いつきます。アブネルは後ろを振り向き、アサエルにこう言います。「私を追うのをやめて、ほかへ行け。なんでおまえを地に打ち倒すことができよう。どうしておまえの兄弟ヨアブに顔向けできよう。」

ふたりの力の差は歴然としていました。アブネルが強い。戦えばアサエルを殺してしまうことがわかります。でもアブネルはアサエルを殺したくありません。それで、もう追うのをやめなさいと勧める。ところがアサエルは若い。引き下がろうとしません。結局、ア

ブネルはアサエルを殺すことになってしまいます。これがアサエルの身に起きたことでした。アサエルはりっぱな戦果を上げたのでしょうか。確かに勇敢だったかもしれない。でもサウル軍の大將アブネルを倒せず、逆に殺された。それなのにどうして三十人の優れた兵士の中に名前が挙げられていくのでしょうか。

2) 死なずにすんだはずなのに

その後何が起きたのかを見ます。ヨアブたちは、殺されたアサエルのかたきを打とうとアブネルを探し、追いつきました。そのときアブネルはヨアブにこう語るのです。「いつまでも剣が人を滅ぼしてよいものか。その果ては、ひどいことになるのを知らないのか。いつになったら、兵士たちに、自分の兄弟たちを追うのをやめて帰れ、と命じるつもりか。」(2章26節)

どこかで私たちは人の罪を赦さなければならぬ。そうでなければ、いつまでも剣が剣を呼び、人が死んでいくことになる。アブネルはそう呼びかけました。後にこれを聞いたダビデは、アブネルの信仰を高く評価したと聖書の別の箇所にも書かれています。

もしヨアブが、アブネルを追うのをもっと早く止めさせていたなら、アサエルは死なずに済んだこととなります。アサエルは、本来は死ぬ必要がなかったのです。そのアサエルの名前が、三十人の兵士の筆頭として掲げられています。

3 ヘテ人ウリヤ (11章6節以降)

1) ウリヤの業績

それがどんな意味なのかは後で見ることにして、次にウリヤについて見ます。このウ

リヤのことについては11章6節に出てきます。ダビデが不倫事件を起こした相手であるバテ・シェバの夫がウリヤです。ある日の昼下がり、ダビデが屋上に出たとき、たまたま向こうの屋上でバテ・シェバが裸で水浴びをしているのを見てしまいます。その日以来欲望を抑えきれずにずるずるとバテ・シェバの元に通い続けます。ダビデはこのことが明るみになるのを恐れ、ウリヤを激しい戦いの最前線に送るように命令を出し、死ぬように仕向けます。結局このダビデの策略によってウリヤは死んでしまいます。

そのウリヤの名前がこのリストの最後に書かれています。なぜ書かれるのでしょうか。ウリヤの名前は、イスラエルの王の耳をふさぎたくないような大スキャンダルを思い起こさせてしまいます。普通ならそんな名前は絶対に載せません。なかったかのようにするのでしょうか。しかし聖書は載せます。なぜ載せるのか。ウリヤが華々しい戦いの成果を上げたからか。確かに彼は部下思いの非常に優れた軍人であったようです。でも大きな成果を上げたとは一つも書いていない。

2) 理不尽な殺され方をする

誰がどう見てもウリヤは死ぬ必要がなかった人です。死ななければならなかったのはむしろダビデのほうでした。しかしダビデはその罪を赦され、生き延びます。そんなウリヤの名がここにあるのはなぜか。理不尽な死に方をしたウリヤの名誉を回復するためなのでしょうか。せめてもの償いということでしょうか。

4 神からの報い

1) ふたりの共通点

まさかそんなはずはない。さきほどアサエルがどんな死に方をしたかを見ました。ウリヤと比べてください。ふたりには共通点があります。アサエルの上司ヨアブは、怒りにまかせて追跡命令を取り下げようとしませんでした。その結果アサエルは殺されました。ダビデは自分の罪を覆い隠すために、理不尽な命令を出します。その結果、ウリヤは死ぬことになりました。

このふたりはどのようにして報いられるのでしょうか。世の人たちから見ならるわられたような死に方です。正しい者が人の罪のわなにはめられて、苦しんだり死ぬようなことがあっていいのか。誰もが思う疑問です。なぜあの人は死ななければならなかったのか。なぜ私はこんなひどい目に遭わなければならないのか。自分が悪かったというのなら受け入れられるかもしれない。でも、どう考えても自分は被害者だと思えない、そんな理不尽な苦しみの中にある方もいるでしょう。

2) 十字架の死とよみがえり

神は何をご覧になっているのでしょうか。このふたりの名前がここに載っている意味を確認したいと思います。かわいそうな死に方をしたので、せめてもの慰めとなるようにと書いて載せたのではありません。

神は、このふたりに報いを与えてくださる。その約束として載せているのではないですか。死んだ者にどうやって報いのでしょうか。もう手遅れだと言いますか。

もしそう思うのなら十字架を見てください。十字架は、この世でもっとも不公平なことが行われた場所と言っているのでしょうか。罪のない方が、それも神である方が、罪ある者

として処刑されていく。これ以上の理不尽なことはありません。それなのに主イエス・キリストは拒みません。ご自分のいのちを捨てられました。そこで終わったのなら、なんの希望もありません。でもこの方は三日目に墓の中からよみがえられました。それは何を意味しますか。理不尽な苦しみに会う者にも、無意味な殺され方をした者であっても、かならず名誉は回復される。主のよみがえりは、そのことを示すことになりませんか。たとえ、罪ある者の手にかかって理不尽な死に方をしたとしても、あなたの名誉は必ず回復されていく。あの三人の勇士が、いのちをかけてベツレヘムの井戸の水を汲んできたように、主は、いのちを捨てて、よみにまで下ってくださり、私たちが飲みたいと願っていたいのちの水を汲んでくださる。アサエルも、ウリヤもその水を飲むことになる。だから名前がここに記されている。私たちの名前もいのちの書にしるされていると言われます。

このように今日聖書は主の救いの約束を語ってくださいます。